

すい」労働市場も、従来のトレンドで職種、処遇を期待しても最早通用しないであろう。しかし、何よりも当事者である労働者が主体的に変わっていかない限り、援助したくとも所詮は援助のしようがないのである。

また、企業に当面雇用吸収力がないとすれば、労働者が自らを雇用する労働者協同組合のような就業形態の多様化も視野におくべきである。今日

たまたま退職を余儀なくされた人々の中には学識経験者や熟練を積んだ環境適応能力の高い人が多数含まれているはずであり、したがって協同化の対象も福祉だけでなく商品開発、システム設計、貿易など、社会的に有用ではあるがリスクも伴う分野にも協同の枠組を拡げ、多様多彩な事業を展開させること。そのための資本調達も金融措置といった「施策の発見」に注力すべきである。

<特集 雇用不安と労働の未来 その2>

生業としての労働

片山 元治 (愛媛県/無茶々園)

一介の百姓が労働問題をとやかく言うことはおこがましいことですが、無茶々園という有機農業を通じた活動のなかで、私なりの実践、考え方を報告いたします。

労働の代価としての文明は、公害を撒き散らし、環境破壊と、多くの生きとし生ける生き物の種を絶滅させ、地球上の至る所に異常気象を引き起こしている。

科学が発達し、現世のぜいたくとは、エネルギーの大量消費である。文明が発達するほど、エネルギーの浪費が進む。労働の代価はエネルギーの大量消費へのチケットだと、考えられないだろうか。

蜜柑の木の代表的な害虫に、ゴマダラカミキリムシという体長3センチメートル前後の虫がいる。俗名根虫と言う。幼虫が地上すれすれの幹の部分の形成層をぐるりとかじるのである。どんな大きな木でもぐるりと食べられると、すぐ枯れてしまう。そして、蜜柑の木が枯れると生きた木が食物なので自分たちも死んでしまうのである。木全体を順序よく食べるなら、何十匹でも生きていられるものを、幹の根元をぐるりとかじるのであるから2、3匹でも十分である。

なにか人間の世界でも同じような気がしてならない。限りある資源を使い尽くし、環境破壊、異常気象まさに地球という蜜柑の木は人間という根

虫によって、幹をぐるりと食い回される直前の、瀕死の状態にあるのではなからうか。

バブルが弾けて、不景気となった。日本は資源のない貿易立国だから、安いものを売ったり買ったりなるようにするのがベスト。これがあたかも雇用不安を解消するかのようになっている。日経ビジネス誌によると、会社の寿命は平均、30年だそうです。30年周期にみまわれる栄枯盛衰のなかで常に一定の雇用条件を保つということは経済の世界では不可能なことだと思うのです。

私は、経済学者ではないから数字をおって、理詰りで話せませんが、百姓の感として、経済合理主義に走れば走るほど、雇用不安は増えてくると思います。

私の町は太平洋戦争直後、失業者が3人に2人、次男三男がごろごろとして、若衆宿に集めて寝せんことには寝る場所もない。裏山と海に囲まれた平地のない当地では、白い米など食べるすべもなく、主食は芋、麦に鯛でした。それでもみんな和気藹々とやっていたようです。

今日の米騒動は、何を物語っているのでしょうか。消費者と百姓が仲良く付き合っているところではこんな騒ぎは嘘のようです。

人間は、自由、個性、平等、愛、何てことを主張している以上、結局コンピュータ管理は出来ないファジーな生きものです。

今、世界中の田舎が過疎になっています。それは科学文明の発達と、生活の安定的発達のバランスが崩れているからです。要するに、文明の利器は宗教以上にアヘン性があり、それが、世界の田舎の隅々まで行き渡り、そして、キリスト文化が土着文化を駆逐して、単一文化化していったからです。

私達は以上のような反省に立ち、都市という巨大なわけのわからない組織の歯車の一つとして生きるよりも、汗を流して生きる喜び、生きとし生きるもの達と自然のなかで会話をしながら生きる道を選びました。

私達は西四国の片田舎で有機農業で蜜柑作りをやっているわけですが、無茶々園は、単なる生産団体ではなく、有機農業をとおして、楽しく生きていける町作りの運動体です。

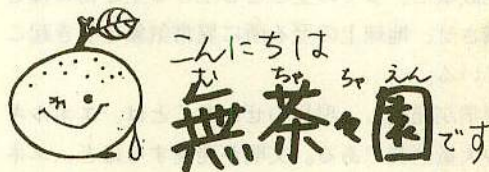
私達は東京の進む道と少し違った方向に進もうと思っています。東京の生活を夢見て、入る金ばかりを追い求めていたのでは「人参を目の前にぶらさげて走る馬」と同じようなものです。価値観を転換して、東京では出来ない田舎の贅沢な暮らし。東京に1日生活するのに1万円必要なら、田舎では5千円で十分楽しく暮らしていける生活を組み立てる。そうなれば、そうあくせく働くことはないのです。無茶々園が町作りの運動体であるというのは、過疎が激しく進んでいる本町では（このまま過疎化が進めば50年後には町の人口はゼロとなる）、5軒や10軒の農家が都市並みの収入をあげても自治体は機能しません。有機農業を普及、実践していくなかで、町内の経済活動の指導権を握り、金持ちも貧乏人も、百姓や漁師ばかりでなく、田舎に住みたい新住民も含めて、エコロジ的な共通の価値観を持って、21世紀にむかって楽しく暮らしていける町作りをしていきたいと思っています。

つまり、田舎は単に農業を振興するだけでは機能仕切れなくなっているのです。そして、私達が目指している田舎が、都市を包囲するように全国至る所にでき、また、世界中のそんな田舎が、都市を介せず連帯できたなら、文明は、地球の進化

と調和のとれた発展をするものと確信します。私達は、原子力発電所を否定するものではありません。原子力発電所が出す放射線を、クリーンにする技術が確立してから使用すべきだと思います。今、原子の電気がなければ、経済不安から雇用不安そして生活不安、暴動が予想され、原子力発電所が必要悪となっているのです。これはイタチごっこです。それを必要としない世界も考えなければならぬと思います。必要悪はいつまでもコントロールは不可能です。

私達の目指す田舎は、都市にとって必要善です。都市生活者は、田舎を単なる食糧基地としてとらえるのではなく、文明、景気のコントロール役、人間の人間たるファージ部分の安定化のための重要な役割を持っているエリアと思います。

米の自由化と共に、兎追いし、こぶな釣りし故郷は音をたてて消えようとしております。田舎がエコロジカルに再生できるよう都市生活者の皆様のご協力を切にお願いするものです。



皆様 お元気ですか？ 無茶々の里では、11月の早生温州を皮叩りに、南柑2号・普通温州・年々明作・伊予柑・ポンネール・ハチとつばき、4月の甘夏が終わるまで柑橘類オンパレードです。収穫がすすむ毎に山々が黄色い点が消えて緑色が戻ってきました。

◎おかげで悪化... 無茶々の里は安心して食べられます
 ▶ マシンオイル以外の農薬・化学肥料・除草剤を2年間以上使用していないものを「無農薬」としています。今年はその以上の量が「無農薬」です。
 ▶ 一般農薬が昆虫の体内に蓄積して化学的に殺虫するのに対し、マシンオイルは油で害虫をくっつけて窒息死させるため、農薬に比べて安全性の高いものです。

◎自然環境抜群！... 無茶々の里は味が濃くおいしい！
 ▶ 愛媛県明浜町は、前は宇和海。後は300mクラスの山。平地はほとんどないというリニア式海岸地帯で、お茶の栽培に最適な土地・気象条件を持つ、町。

◎私達は考えます... 無茶々の里のめざすものは？
 ▶ 農薬・化学肥料・除草剤の多用は、エモ酸し、自然の生態系を破壊するばかりでなく、かんや障害などもひきおこし、人体をも物理的にダメージを与えます。
 ▶ なるべく石畑に頼らない方法を目指し、山・海・穀類を有機的にリサイクルさせる無茶々園式有機栽培法を確立したいと思っています。
 ▶ 神や田舎の顔の見えり付け合いを目指しています。

無茶々園とは、環境破壊を伴わず、健康で安全な食糧の生産を通じてエコロジカルな町づくりを目指す運動体です。

四国においでの際は、是非お立ち寄り下さい。 TEL. 0894-65-1417 FAX. 65-1638